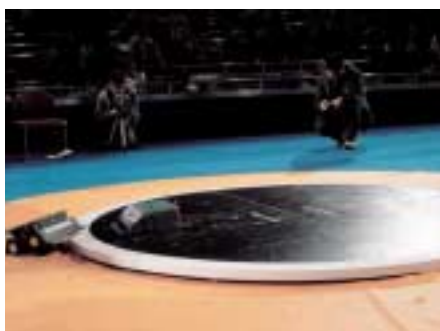


全日本ロボット相撲大会 第15回 全国大会

「ロボマガ」記者・城井田 きいた かつひと かつひと 勝仁



10kg級

激しいぶつかり合いに興奮を覚える！

10kg級から始まった第15回全国大会は、10kg級ならではの激しいぶつかり合いを見せてくれた。10kgに満たない3kgクラスの相撲ロボットの奮闘などもあり、いろいろな意味で見所の多い大会となった。

自立型は「千厩X-2」が ラジコン型は「神楽」が制す

二度の実験戦を経て、10kg級は今大会より正式な種目となった。本来は、3kg級が廃止され、10kg級への全面的な移行となるはずだったが、3kg級の存続を希望する人が予想以上に多く、その熱い思いを主催者側が酌んだのだ。

3kg級の前日に開催された10kg級では、相撲ロボットの制限が大幅に緩和されている。20cm四方だった大きさは、30cm四方まで許されるようになった。高さに関する制限がないのは、従来どおりである。ロボットの重量は、大会名からもわかるとおり、10kgまで許されることとなった。

相撲ロボットが大型化したことにもともない、土俵も従来の直径154cmから227cmと、見ためにわかるほど広くなった。3kg級では1枚の鉄板で構成されていた土俵は、10kg級では4枚の鋼板の組み合わせで作られる。

土俵が広くなり、ロボットが大きく重くなっ

たことで、10kg級の試合は迫力満点だった。ぶつかり合いもすさまじく、昨今の高速化の傾向がそれに拍車をかけていた。

参加台数がそれほど多くない10kg級は、地区大会が設けられず、全国大会のみで争われた。しかし、3kg級でおなじみの顔が多く見られ、そのレベルは決して3kg級に劣るものではなかった。

そんな10kg級の自立型を制したのは、岩手県立千厩高等学校の「千厩X-2」だ。4、5年前に高校生大会の自立型横綱を輩出していた千厩高校は、10kg級という新たな活躍の場を得た。決勝では、今季の高校生大会を席卷した三重県立四日市中央工業高校の相撲ロボットとの対決となったが、1本目を先取されたものの、動揺することなく逆転優勝を決めた。

ラジコン型では、神奈川県立横須賀工業高等学校OBの桑原明氏が大善戦した。練習試合の相手に事欠かない高校生が圧倒的なラジコン型の中で、見事に決勝進出を果たしたのである。残念ながら決勝では千葉県立茂原工

業高等学校の「神楽」に敗れはしたものの、高校生の操る強豪ロボットを次々に倒したその健闘ぶりは評価に値する。



高校生に混じって大健闘した、神奈川県立横須賀工業高等学校OBの桑原明氏。